

研 究 分 野	資源評価	機関・部	水産総合研究所・漁場環境部
研 究 事 業 名	あかいか漁場探査シミュレーションモデル開発事業		
予 算 区 分	研究費交付金(青森県)		
研 究 実 施 期 間	H21～H22		
担 当 者	大水 理晴・田中 淳也		
協 力 ・ 分 担 関 係	京都大学、遠洋水産研究所、(独)海洋研究開発機構、(財)日本海洋科学振興財団		

〈目的〉

中型イカ釣船のアカイカ操業をサポートするため、これまでの調査で蓄積したアカイカに関するデータや、衛星による大気・海洋のデータ等を用い、アカイカ漁場形成予測を行うことが可能なシミュレーションモデルの開発を目指す。

〈試験研究方法〉

(1) 漁場調査

三陸沖の17調査点で試験船開運丸により11月、12月、1月にアカイカ操業及び海洋観測（水温、塩分、流向流速、クロロフィル・栄養塩・動植物プランクトン等）を実施した。

(2) アカイカ漁場形成要因の把握

平成11年～平成20年のアカイカに関する標本船・試験船データを基にアカイカ漁場形成要因の解析について京都大学に委託した。

〈結果の概要・要約〉

(1) 漁場調査

結果を図1及び図2、図3に示した。11月調査における各操業点でのアカイカ漁獲尾数は0～18尾、CPUEは0～0.74（尾/台/時間）、12月調査における漁獲尾数は0～116尾、CPUEは0～1.66（尾/台/時間）、1月調査における漁獲尾数は0～5尾、CPUEは0～0.07（尾/台/時間）であった。また、漁獲されたアカイカの外套背長は、11月調査では30～60cm、12月調査では27～55cm、1月調査では37～46cmの範囲であった。

(2) アカイカ漁場形成要因について

漁場環境を変数とした漁場形成予測モデルを作成し、モデルの検証を行った。

〈今後の問題点〉

調査回数を重ね、モデルの精度を高めるために必要なデータ量を増やす必要がある。

〈次年度の具体的計画〉

- ・引き続き試験船開運丸で調査を行い、アカイカの漁獲及び漁場環境（クロロフィルや栄養塩、動植物プランクトン）に関するデータを収集し、開発を進める。

〈結果の発表・活用状況等〉

特になし。

〈主要成果の具体的なデータ〉

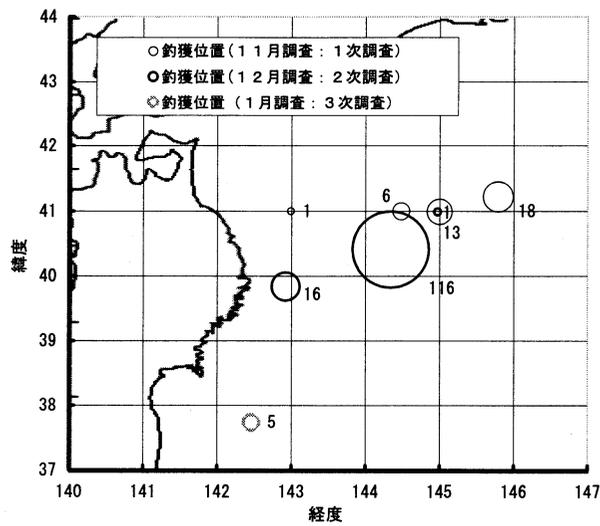


図1 調査時期別のアカイカ漁獲尾数

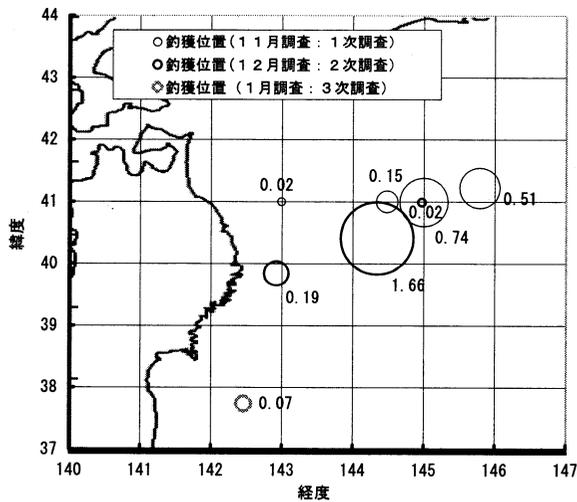


図2 調査時期別アカイカのCPUE (尾/台/時間)

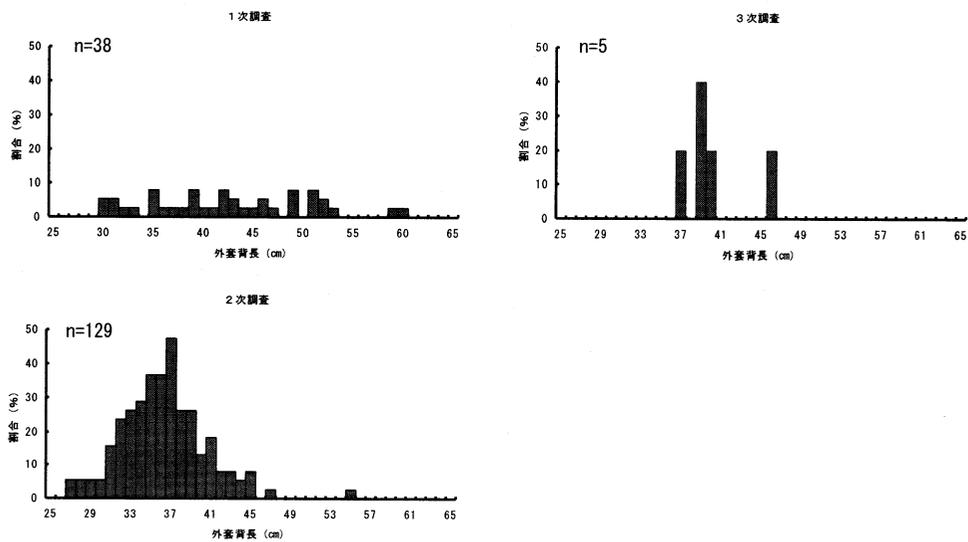


図3 調査時期別のアカイカ外套背長の組成